



JAPIC NEWS

contents

■ 巻頭言

横浜市における生命科学振興と医療ベンチャー支援 (木原記念横浜生命科学振興財団の活動を中心に)

公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団 理事長 大野 泰雄 2

■ インフォメーション

薬系大学・医系大学4年生向けに

JAPIC「医療用・一般用医薬品集2020 CD-ROM」を無償提供! 4
年末年始休業のお知らせ

■ トピックス

第29回日本医療薬学会年會に出展しました 5

医療創生大学薬学部で「iyakuSearch」検索講習会を行いました

JAPICサービスの紹介

⑥ JAPIC Daily Mail (JDM) 6

⑦ JAPIC Daily Mail Extra (JDM エクストラ) 7

⑧ JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus) 8

⑨ JAPIC Weekly News

■ コラム

くすりの散歩道No.133「クスリで予防!？」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 渡部 さおり 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報よりー(抜粋) 10

■ 図書館だより No.354 11

■ 情報提供一覧 11

12

December

2019

No.428

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

巻頭言

kantohgen

横浜市における 生命科学振興と 医療ベンチャー支援

(木原記念横浜生命科学振興財団の活動を中心に)



公益財団法人
木原記念横浜生命科学振興財団
理事長

大野 泰雄

Ohno Yasuo

1. はじめに

横浜のみなとみらい駅を出て約2分、オーシャンゲートみなとみらいビルのエレベーターを8階で降りると目の前に「WeWorkオーシャンゲートみなとみらい」のガラス張りのオフィスがある。自動ドアを入ると、受付デスクを通して、広々として余裕のあるオープンフロアにスマートな若い人達がパラパラと、テーブルに向かい仕事をしているのが見える。丁度、図書館の閲覧室の様である。窓際には、一段高くなった座敷のようなレーンがあり、掘り炬燵に似たテーブル席が並び、そこでも向かい合って話している。フロアの一画には、ドリンクバーが備えられ、珈琲、紅茶、生ビール（15時半～）を好きなようにとれる。フロアの奥には会議室がいくつか配置されている。大きいものは25人位収容できそうである。反対側には、不透明なドアで区切られた図書館の書庫のような落ち着いたスペースがあり、小さなガラス張りのオフィスが並んでいる。この一画にはコピー機等の事務機器も備えられている。このシェアオフィスを運営するWeWorkの係員に聞くとところによると、2019.7.5現在、このような施設が28カ国の105都市に485カ所、日本にも19カ所あり、メンバーは466,000人に上るとのことである。そこではスタートアップ企業から大企業まで多くのメンバーが世界中のコミュニティを通じて、お互いに刺激しあえるコラボレーション環境を活用しているとのことである。会員数は日々増加しているようで、係員にも正確な把握は難しそうである。

2. LIP (Life Innovation Platform) YOKOHAMA BIBLIO(リップ横浜ビブリオ)とは?

横浜市は健康・医療分野（創薬、医療機器開発、診断技術開発など）のイノベーションを持続的に創出していくことを目的とし、産学官金（金融）が連携して取り組むために、2016年より「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（LIP 横浜）」を始動した。このプラットフォームは、企業・大学・研究機関のネットワークから革新的なプロジェクトを生み出すとともに、製品化に向けての中小・ベンチャー企業等の事業支援を行うことにより、新技術・新製品の開発を促進することを主眼としている。この流れの中で、公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団（以下、木原財団と略す）は、中核的な支援機関としての期待に応え、産官学金のネットワークを基礎とした事業化支援等に取り組んでいる。

LIP YOKOHAMA BIBLIOはそのプロジェクトの一翼を担うものとして、現在医療関係の仕事を行っている、あるいは、これから行おうとする中

小・ベンチャー企業への支援を強化するために、今年（2019年）、上記「WeWorkオーシャンゲートみなとみらい」内に開設されたもので、4月2日に開所式が執り行われた（<https://biblio.yokohama/>）。運営は木原財団が行っており、事前予約があれば誰でも無料で関連資料や文献の閲覧、また、研究開発情報の調査が可能で、専門家による相談も受けられる。開所以来、この10月まで約300人により利用され、約60件の相談に応じている。LIP.YOKOHAMA BIBLIOが、単なる支援拠点にとどまらず、WeWorkの特徴であるコミュニティ型ワークスペースを生かし、異業種の企業等との交流による革新的な研究・製品開発を生み出す場としての機能を発揮することを期待している。気軽に寄っていたき、情報収集と相談・交流への利用を願っている。

3. 公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団とは

木原財団は遺伝学研究者でゲノムの概念を世界に先駆けて提唱し、研究成果の社会への還元を常に意識しておられた木原均先生を記念して、“生命科学の振興とその応用による産業の活性化”を目的として設立され、現在は、県知事認可のもと、横浜市経済局に関係する公益財団法人として、以下のような事業を推進している。

第1に、小中学生を対象に将来の科学者としての芽を育むための木原記念こども科学賞や、優れた独創的研究を行っている50歳以下の研究者を励まし、顕彰するための木原記念財団学術賞の贈呈を通じて、アカデミアや未来の科学者をエンカレッジしている。その上で、神奈川県域のライフサイエンス系企業及び大学等の研究機関の協力を得て、地域の産業基盤となる貴重な技術や研究成果の掘り起こし、マッチングによる研究開発プロジェクトの創出・推進、技術開発と産業化の支援等を行っている。

第2に、生命科学の応用による産業活性化の支援活動として、前記のLIP.横浜と関連事業を推進するとともに、「ネットワークの促進と運営支援」としてアカデミアや企業などを会員とし、情報提供と会員間の交流のためにバイオペンチャーアライアンス（BVA）の運営を行っている（2019.11月現在会員は63機関）。このほか、地元企業を対象にバイोजパンへの出展支援や、他地域のクラスターとの産学連携・産産連携等の企画や情報交換等を推進し、横浜・神奈川地域のバイオ産業の活性化を目指している。

第3に、バイオ産業集積の拠点である横浜バイオ産業センター（YBIC：ワイビック）を整備・運営し、生命科学関連の企業や研究機関に研究・開発の場を提供するだけでなく、入居者同士の交流を計っている。

なお、市内企業や大学等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる上限100万円までの費用を助成する「トライアル助成事業」を実施している。

木原財団の事業の詳細は、木原財団のHP（<http://kihara.or.jp/>）、村戸ら（2015）および鈴木（2019）により紹介されている。

4. 最後に

最近の画期的新薬として、免疫チェックポイント阻害薬「オプジーボ（一般名：ニボルマブ）」やエボエチンに代わる腎性貧血治療薬「エベレンゾ（同：ロキサデュスタット）」があげられる。それぞれ、京大の本庶佑教授及びジョンズ・ホプキンス大学のグレッグ・セメンザ教授らの基礎研究に基づくものであり、その業績に対し、それぞれ昨年および今年のノーベル賞が授与された。

現在では、新規の画期的な新薬や医療機器の開発におけるアカデミアやベンチャーの役割は極めて大きい。真にイノベティブな新薬はアカデミアの研究成果に基づく新しい発想とそれを新薬に発展させるチャレンジ精神、および仲間との協力が重要である。

ちなみに、平成27年（2015）4月に厚労省、経産省、文科省の協力で設立された日本医療研究開発機構（AMED）では我が国における創薬を含む医療研究全体を支援・活性化するために多くの事業を行っているが、そこで採用された独自課題の多くはアカデミアやいわゆるベンチャー企業からの研究提案である。

木原財団では、生命科学にベースをおいた産業の育成を図るために上記のような多方面の支援活動を行っている。今後もイノベーション支援方策の新たな形を模索しながら、産業化につながる新規プロジェクトの立ち上げに取り組む所存である。

なお、シェアオフィスで仕事をする人たちの様子は、2019年10月18日放送のNHKドキュメント72時間で、「東京永田町 シェアオフィス」として株式会社ガイアックスが運営するNagatacho GRiD（永田町グリッド）が紹介されている。スマートでチャレンジングな若い人たちが協力しあって仕事をしている姿は頼もしい限りであり、少しでも彼らの支援ができれば望外の喜びである。最近の報道ではオフィスの急拡大によると思われる問題も生じ、整理も行われるようであるが、新しい仕事の場として、WeWorkやGRiDのような施設が定着し、発展していくことを期待している。

1) 村戸康人、三宅善敬、西井正造、増田和成、小田祥二、横浜・神奈川における生命科学産業のオープンイノベーション -地域に根ざした公益財団の取組み-、日薬理誌145,146~151 (2015)

2) 鈴木榮一郎、横浜・神奈川地域におけるバイオ産業・生命科学の振興を目指す公益財団の取組み、JBA機関紙 B&I 77, 321~325 (2019)

薬系大学・医系大学4年生向けに JAPIC「医療用・一般用医薬品集2020 CD-ROM」を無償提供！

教育支援の一助として、本年度も「JAPIC医療用・一般用医薬品集2020 CD-ROM」を無償提供いたしました。薬系大学及び医系大学4年生向けに各校ご利用の希望数をお伺いし、本年度は薬系大学66校に約10,600枚、医系大学62校に約7,500枚以上のCD-ROMを11月に送付いたしました。

本事業は、3月発行の「日本の医薬品 構造式集」無償提供と同様に毎年実施しており、本年で15年目となります。「日本の医薬品構造式集」は、薬系大学の新1年生向けに約14,000冊を提供しております。いずれも医療現場において次世代を担う学生への教育支援として公益事業の一環で実施しており、提供先大学からは、教育現場で広く有効に利用されているとのご報告をいただいております。

このような事業を継続できますのもJAPIC会員の皆様のご支援の賜物と感謝しております。



JAPIC医療用・一般用医薬品集2020 CD-ROM
Windows版

収録内容

- ・医療用医薬品集
- ・一般用医薬品集
- ・薬剤識別コード一覧
- ・薬価情報
- ・先発品・後発品の全情報
- ・添加物情報
- ・最新添付文書画像 (PDF) の表示機能付き
(要インターネット接続。医療用医薬品は毎週更新、
一般用医薬品は月1回更新。)



日本の医薬品 構造式集

医薬品の安定性、溶解性などの化学的特性、薬効・薬理が示唆され容易に類似化合物の類推ができる、構造式約1,400成分を一覧化。薬剤師はじめ化学、薬学領域の学生、研究者にとって不可欠な内容です。

年末年始休業のお知らせ

年末年始休業：令和元年12月28日（土）～令和2年1月5日（日）
新年は1月6日（月）より業務を開始いたします。

第29回日本医療薬学会年會に出展しました

2019年11月2日(土)から4日(月)にかけて、福岡国際会議場他において開催された第29回日本医療薬学会年會に出展しました。日本医療薬学会はその前身の日本病院薬学会として平成2年6月に病院薬剤師会が中心となって設立され、平成13年1月に日本医療薬学会に名称が変更されました。本會は「病院、薬局、製薬企業、薬学教育機関、行政等に携わる方々を會員とし、医療薬学に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、會員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、医療薬学の進歩及び普及を図り、もって我が国の学術文化の発展と國民の福祉の向上に寄与する」ことを目的とする学会です。

全国の主要都市において年1回、週末の3日間を利用して年會を開催しており、今年は「新しい時代を担う医療薬学のこれから～薬学の英知の結集～」をメインテーマとし、68のシンポジウムに7つの特別講演、2つのワークショップが生まれ、約8,400名の参加登録者があり、今回の出展ではJAPIC添付文書情報関連データを中心に、医薬品と対応病名検索システム「病名ナビ」、院内採用医薬品集作成システム「JAPIC PIA」を展示いたしました。

JAPICでは、定期的に学会の企業展示に出展しております。お出かけの際はお気軽にお立ち寄りください。多くの方々のご意見やご要望をお伺い出来ることを楽しみにお待ちしております。

医療創生大学薬学部で「iyakuSearch」検索講習会を行いました

「iyakuSearch」はJAPICが作成・提供する医薬品情報データベースです。JAPICでは、JAPIC維持会員機関を中心に、「iyakuSearch」検索講習会を実施しています。

大学等の教育機関向けの検索講習会では、主に医薬品情報学の講義時間をお借りして、情報検索演習の一環として行っております。講習会は90分の講義時間の中でJAPIC職員が講師となって行われ、参加した学部生のみなさんには説明を聞くだけでなく、実際にパソコンを操作しながら検索例題や演習問題を解いていただき、文献の検索方法や添付文書の入手方法を習得していただけます。医療創生大学薬学部では2013年度から「iyakuSearch」検索講習会を毎年実施しています。

今年度は2019年11月11日(月)に薬学部4年生に対して「iyakuSearch」検索講習会を行いました。

講習対象となるデータベースは医薬品の有効性や安全性・品質に関する文献を収集した「医薬文献情報」、医薬品の有効性や安全性・品質に関する学会発表を収集した「学会演題情報」の他、「医療用医薬品添付文書情報」、「一般用医薬品添付文書情報」の4つを使って行いました。

「iyakuSearch」は、医薬品開発・市販後調査・安全業務のリスクマネジメントプロセスとリンクする多岐にわたった医薬品情報を提供しており、どなたでも無料で検索できる医薬品情報データベースポータルです。上記4つのデータベースはスマートフォンから検索できるインターフェースも用意しておりますので、いつでもどこからでも、自由にお試しください。

また教育機関に限らず、製薬企業のiyakuSearchご利用機関向けにも検索実習を行っています。ご興味のある方は是非お問い合わせください。



6 JAPIC Daily Mail (JDM)

医薬品 / 医療機器

毎日
配信

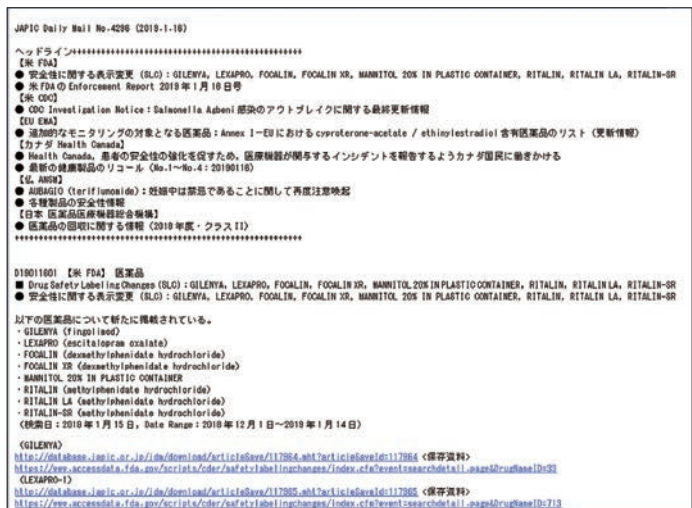
海外

国内

規制措置速報

■ 医薬品・医療機器等の安全性に関する海外及び国内の規制措置情報

- 「JAPIC Daily Mail」は医薬品の市販後調査の基準に関する省令〔医薬品 GPMSP (現 GVP / GPSP)〕の一部改正に伴う外国措置情報の収集等の業務支援を目的として、平成 13 年 5 月より製薬企業会員を対象に開始したサービスです。
- 外国規制当局等が発信する、医薬品等に関する最新の安全性措置情報を提供
医薬品 (サプリメント等も含む)、医療機器、再生医療等製品、体外診断薬、コンビネーション製品を対象とし、有害事象、副作用、不具合等に関する通知、表示改訂、回収情報等、安全性に関する措置情報を選択し、日本語概要、該当原文の URL をつけて、毎日 (JAPIC 営業日) 電子メールで提供します。
- 情報の入手から提供までを 1 営業日中に行う即日提供サービスです。
- 情報収集は 8 カ国 2 機関約 80 サイトから
米国 FDA、EU / European Medicines Agency、英国 MHRA 等、8 カ国 2 機関 (米、英、独、仏、豪、カナダ、スウェーデン、ニュージーランド、EU、WHO) 及び日本の規制当局等のホームページ約 80 サイトを毎日チェックしています。
- 「プレ送信」と「本送信」の 2 種類を提供
「プレ送信」は午前中に、当日提供予定の外国の措置情報を、日本語概要を加えずに原文のまま送信し、迅速な情報提供を求めるユーザのご希望にお応えしています。
2018年7月よりプレ送信メールの受信について、有無の選択が可能となりました。
「本送信」は午後、日本語概要を加えて送信します。



特長

- 1 外国における安全性措置情報の収集に役立ちます。
外国における医薬品・医療機器等の安全性に関する措置情報の迅速な入手及び関連製品等の対応ツールとして高い評価をいただいています。また、外国だけでなく国内の措置情報の収集にも役立ちます。
- 2 措置情報の収集労力と費用の節減になります。
- 3 「医薬品情報データベース iyakuSearch Plus / JAPIC Daily Mail (JDM) DB」も利用可能です。

無料
トライアル

新規にサービスのご利用開始をお考えの方を対象に、無料トライアルを行っています。
お申し込み後、約 1 ヶ月間、ご希望のメールアドレスへ毎日 JDM を送信します。

7 JAPIC Daily Mail Extra (JDM エクストラ)

※「JAPIC Daily Mail」ユーザー対象

医薬品 / 医療機器

毎日
配信

海外

国内

規制措置速報

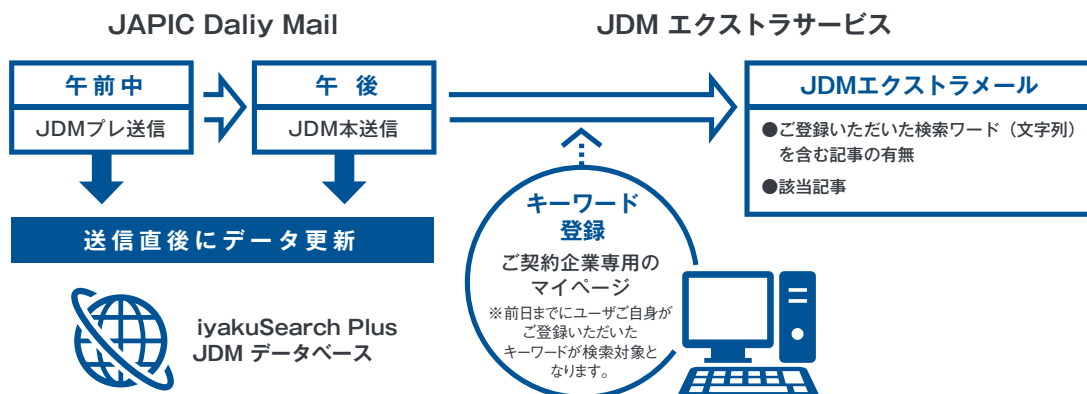
■JDMの内容から個別の医薬品・医療機器等に関する情報を選択提供

- JAPIC Daily Mail Extra (JDM エクストラ) サービスは、JDM の内容からご登録いただいた医薬品・医療機器等についての情報を選択して個別に提供するサービスです。平成 21 年度より開始しました。
- JDM サービスご利用ユーザを対象とし、JDM で提供した内容から、キーワードとしてご登録いただいた医薬品・医療機器等に関する情報を検索し、検索結果および該当記事をメールにて提供します。
- JDM で提供した記事のタイトルおよび日本語概要のみならず、該当原文（保存資料）も検索対象とすることが可能です。主題となる重要な医薬品・医療機器等名に関しては、JDM の記事の日本語概要に一般名や製品名を記載しております。JDM エクストラサービスでは、該当原文中の記載についても検索が可能です。ただし、規制当局等がサイトに掲載する記事の形式（イメージ画像等）やセキュリティ上の制限等により、該当原文によっては検索が不可能となる場合がありますので、予めご了承ください。

特長

- 1 毎日の JDM の確認における見落とし防止に役立ちます。全社に共通の情報を提供している JDM の内容から関心のあるキーワードの見落とし防止として、補完的にご活用いただけます。
- 2 サービスご利用ユーザには、Web 上の専用マイページにて、ご自身で検索キーワードをご登録いただけます。（検索キーワード例：医薬品の一般名（INN：International Nonproprietary Names）、販売名、薬物群、医療機器製品名等）
- 3 検索は、ご登録いただいた検索キーワード（文字列）による、JDM 本文および該当原文テキスト内の中間一致検索となります。
- 4 検索履歴や操作履歴、検索結果および該当記事を、マイページにおいて確認することが可能です。

提供までの流れ



—医薬品・医療機器等の適正使用に役立つ品質・有効性・安全性に関する情報提供サービス—

8 JAPIC Daily Mail Plus (JDM Plus)

※「JAPIC Daily Mail」ユーザ対象

医薬品 / 医療機器

海外

国内

感染症情報

週1回
配信

原則毎週
月曜日

■生物由来製品等に関する感染症情報

- 国内外の有用な Web サイトを調査し、生物由来製品および再生医療等製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料から人に感染すると認められる疾病に関する情報（新規感染症、既知感染症の発生情報や新規感染経路、生物由来製品に係わる感染症情報等）を電子メール（Excel ファイル）にて提供するサービスです。
- 日本語の概要に該当原文へのリンク、キーワード（感染症、動物種）、内容分類（新規感染症情報等）を付けて提供します。調査対象は WHO、OIE、EU、各国機関（米、英、カナダ、独、仏、豪、日本等）のホームページ約 40 サイトです。また、JAPIC Daily Mail で提供した感染症情報も提供します。

記事番号	機関	チェックサイト	チェックサイトURL	分類	感染症等	本文	原文リンク
725-1	WHO	WHO / Emergencies preparedness, response / Disease Outbreak News (DONs) / Latest	http://www.who.int/csr/don/en/	既知感染症の発生情報	コレラ(ヒト)	コレラザンビア: 2017年10月6日、Minister of Healthは、ザンビアの首都Lusakaにおけるコレラのアウトブレイクを宣言した。2017年9月28日～2017年12月7日、アウトブレイクの開始以降、15例の死亡(致死率1.8%)を含む547例が報告された。 アウトブレイクの初期の期間は9月28日～10月20日であった。2017年10月21日～11月4日、報告された症例は週ご5例未満であった。しかし、2017年11月5日以降、症例数の増加が認められ、11月26日に始まる週には合計136例が報告された。 Chipata, Kanyama, Matero, Bauleniのコレラ治療センターで現在症例62例が治療を受けている。これ	http://www.who.int/csr/don/11-december-2017-cholera-zambia/en

9 JAPIC Weekly News

医薬品 / 医療機器

海外

国内

規制当局からの情報

週1回
提供

原則毎週
木曜日

■医療機関向けの医薬品・医療機器等の安全性に関する海外および国内の規制措置情報 (JDMからの抜粋)

- 医薬品・医療機器企業向けに提供している医薬品・医療機器等の安全性に関する外国および国内の規制措置情報サービス「JAPIC Daily Mail」からの記事を抜粋し、主として医療機関／医薬教育機関向けに再編し、提供します。平成 17 年 4 月より、JAPIC 会員の医療機関／医薬教育機関を対象に開始した無料サービスです。
- 電子メール（PDF ファイル添付）にて提供します。



提供内容

- 外国規制当局等からの情報
外国規制当局等からの医薬品・医療機器等に関する重大な安全性情報のうち、製品情報の改訂、医療専門家向け通知、Press Release など
- 厚生労働省・医薬品医療機器総合機構からの情報
省令、通知（局長、課長）（医療機器、医薬品、治験等に関する重要な記事）、回収通知（「クラスI」に分類されている記事）
- JAPIC NEWS にも一部内容を掲載します。

くすりの散歩道

no.133

クスリで予防!?

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当
渡部 さおり Watanabe Saori



私事で恐縮であるが、数年前より塩酸ロメリジンのお世話になっている。そう、頭痛の予防薬である。薬といえば、ワクチン接種や一部の感染症で行われている予防内服を除いて、一般的に“治療に使われるもの”と思っていた私は、この予防薬の存在を知った時、「薬で予防もできるの!?’と驚いたのであった。そして、「知らないだけで、実は他にもあるのかもしれない」と思い、予防目的で投与される薬について、調べてみることにした。

JAPIC医薬品情報データベースiyakuSearchの「医薬文献情報データベース」で、1990年以降に収録された“予防投与”を含む文献を検索したところ、2245件の該当があった。そこから予防投与が主題となっているものに絞り、同じ目的で同じ薬効群の薬剤が用いられている場合は重複として除外し、残る53件について分析を行った。

なお、ここでは、健常者およびハイリスク者に対し、疾病の罹患を未然に防ぐことを目的に行われる投薬を一次予防、疾病の治療段階において、手術の合併症や医薬品の副作用を未然に防ぐことを目的に行われる投薬を二次予防、主病の合併症や再発を未然に防ぐことを目的に行われる投薬を三次予防として、分類した。

【一次予防】

健常者を対象としたものとしては、各種ワクチン接種や抗マラリア薬の渡航時内服による感染予防、ビタミンKによる新生児メレナの予防に関する報告があった。

ハイリスク者を対象としたものとしては、感染症妊婦からの垂直感染の予防に抗菌剤や抗ウイルス剤、感染症患者と接触のあった人の発症予防にワクチン、抗菌剤、抗ウイルス剤、抗原虫剤、 γ -グロブリン、漢方製剤、家族性乳がんや胆石症の発症予防にホルモン剤を用いた報告があった。

【二次予防】

手術の合併症予防では、感染症の予防に抗菌剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、抗原虫剤、術後せん妄の予防に漢方製剤や抗精神病剤、深部静脈血栓症の予防に血液凝固阻剤、全身性炎症反応症候群に

伴う急性肺傷害の予防に好中球エラスターゼ阻害剤、間質性肺炎の予防に副腎ホルモン剤、胆石症の予防に利胆剤、牛乳蛋白質不耐症の予防に活性生菌製剤、GVHDの予防に抗菌剤、免疫抑制剤、 γ -グロブリンを用いた報告があった。

医薬品の副作用予防では、血小板の輸血副作用予防にアレルギー用薬や副腎ホルモン剤、オピオイドによる便秘の予防に下剤、麻酔薬による循環抑制の予防に抗コリン薬や強心剤のほか、抗がん剤による発熱性好中球減少症の予防にG-CSF製剤、悪心・嘔吐の予防に制吐剤や催眠鎮静剤、感染症の予防に抗菌剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、手足症候群の予防に皮膚軟化剤やビタミン剤、口内炎の予防に消化性潰瘍用剤や漢方製剤、イホスファミド脳症の予防に色素製剤を用いた報告があった。

【三次予防】

主病の合併症予防では、脳血管疾患患者に抗てんかん剤や酵素製剤、早産児に γ -グロブリン、G-CSF製剤、カルシウム製剤、解熱鎮痛消炎剤、呼吸促進剤、AIDS患者に抗菌剤、抗真菌剤、抗ウイルス剤、抗原虫剤を用いた報告があった。

再発予防では、ラクナ梗塞患者に抗血小板剤、髄膜炎患者にワクチンや抗菌剤、熱性けいれん患者に抗てんかん剤や催眠鎮静剤、胆石症患者にホルモン剤、花粉症患者にアレルギー用薬、産褥精神病既往産婦に精神神経用剤、妊娠中毒症既往妊婦に漢方製剤を用いた報告があった。

一次予防に関する報告は主に2000年代、二次予防に関する報告は2010年代、三次予防に関する報告は1990年代に多く見受けられ、予防の照準に変遷があることもうかがえた。除外したものや抽出もれも含めると、実際にはさらに多様な予防投薬が行われているものと推察される。

生活習慣病など、発症要因として個人の生活習慣の寄与が大きく、その改善により予防が期待できる疾患では、安易に薬に頼らず、不適切な生活習慣をまず改善することが優先されるが、そうでない場合には、薬の恩恵を受けても良いのだなあと、思い直したところであった。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2019年10月1日～10月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 721-725) の記事から抜粋

■米FDA

- 業界向けガイダンス：採血施設および輸血サービスに対する輸血用血小板の安全性および入手可能性を強化するための細菌リスク管理戦略
<<https://www.fda.gov/media/123448/download>>
- Class I リコール：Medtronic, 分離および破砕の問題のため, 6 French Sherpa NX Active Guide Cathetersをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/medtronic-recalls-6-french-sherpa-nx-active-guide-catheters-due-separation-and-fragmentation-issue>>

■カナダHealth Canada

- Summary Safety Review: Avalon Fetal Monitor—未出生児(胎児)の不正確な心拍数追跡の潜在的リスクの評価
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00232>>
- LEMTRADA (alemtuzumab)—自己免疫性肝炎, 血球貪食性リンパ組織球症および関連する重篤な心血管障害のリスク
<<https://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2019/71299a-eng.php>>

■EU・EMA

- News: 投薬過誤のリスクが高いリポソーム医薬品の名称変更
<<https://www.ema.europa.eu/en/news/change-name-liposomal-medicines-high-risk-medication-errors>>
- Referral: Article 31 referrals; 局所用estradiol含有 (0.01% w/w) 医薬品 (Linoladiol, Linoladiol N, Linoladiol Estradiol, Estradiol Wolff, Montadiol), ファーマコビジランスリスク評価委員会 (PRAC) により示された勧告 (更新情報)
<https://www.ema.europa.eu/documents/referral/estradiol-containing-001-w/w-medicinal-products-topical-use-article-31-referral-four-week-limit-use-high-strength-estradiol_en.pdf>

■英MHRA

- ingenol mebutateゲル (Picato▼): 一部の臨床試験で認められた皮膚腫瘍発現率の上昇
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/ingenol-mebutate-gel-picato-increased-incidence-of-skin-tumours-seen-in-some-clinical-studies>>
- nivolumab (Opdivo): サイトメガロウイルス (CMV) 性消化管感染および再燃の報告
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/nivolumab-opdivo-reports-of-cytomegalovirus-cmv-gastrointestinal-infection-or-reactivation>>

■仏ANSM

- ifosfamide: 仏ANSMが要請した試験で, 液剤 (ifosfamide EG) による脳症のリスクが高いことが示される
<<https://www.ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Ifosfamide-une-etude-demandee-par-l-ANSM-montre-un-risque-d-encephalopathie-plus-important-avec-la-forme-en-solution-Ifosfamide-EG-Point-d-information>>

■医薬品医療機器総合機構

- ラモトリギンの重篤皮膚障害と用法・用量の遵守について
<<https://www.pmda.go.jp/files/000231981.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
2019予防接種に関するQ&A	—	一般社団法人 日本ワクチン産業協会	2019年8月
2019ワクチンの基礎 ワクチン類の製造から流通まで	—	一般社団法人 日本ワクチン産業協会	2019年8月
Japanese Pharmaceutical Excipients 2018 英文版 医薬品添加物規格2018	薬事日報社	薬事日報社	2019年8月
医療用医薬品識別ハンドブック 2020	医薬情報研究所	株式会社じほう	2019年9月
新訂版 食品添加物の使用基準便覧	—	日本食品衛生協会	2019年7月
第十七改正日本薬局方 第二追補 解説書 — 条文・注・解説—	日本薬局方解説書 編集委員会 編	廣川書店	2019年9月
第十七改正日本薬局方技術情報 (JPTI 2016)	一般財団法人医薬品医療機器 レギュラトリーサイエンス財団 編	株式会社じほう	2016年4月
腸内フローラとディスバイオーシス(バランス失調) — 腸内フローラシンポジウム27	神谷茂 編	公益財団法人ヤクルト・ バイオサイエンス研究財団	2019年9月
適応・用法付 薬効別薬価基準 保険薬事典 Plus+ 令和元年10月版	薬業研究会 編	株式会社じほう	2019年9月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第92巻 平成30年1月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター 編	一般財団法人 日本医薬情報センター	2019年10月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第93巻 平成30年1月承認分-2 平成30年2月承認分 平成30年3月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター 編	一般財団法人 日本医薬情報センター	2019年10月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第94巻 平成30年3月承認分-2	一般財団法人 日本医薬情報センター 編	一般財団法人 日本医薬情報センター	2019年10月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第95巻 平成30年3月承認分-3 平成30年5月承認分 平成30年7月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター 編	一般財団法人 日本医薬情報センター	2019年10月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第96巻 平成30年7月承認分-2 平成30年8月承認分 平成30年9月承認分-1	一般財団法人 日本医薬情報センター 編	一般財団法人 日本医薬情報センター	2019年10月
日本の新薬—新薬承認審査報告書集—第97巻 平成30年9月承認分-2 平成30年11月承認分 平成30年12月承認分	一般財団法人 日本医薬情報センター 編	一般財団法人 日本医薬情報センター	2019年10月

情報提供一覧

2019年11月1日～11月30日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch) Free	https://database.japic.or.jp/
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」2019年10月分 (HP定期更新情報掲載)	11月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. 「JAPIC NEWS」No.428 2019年12月号	11月29日	2. 学会演題情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉(郵送、電子メール等で提供)		3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」No.1207-1210	毎 週	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	6. 日本の新薬	随 時
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	7. 学会開催情報	月 2 回
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する 措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.4489-4508	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
6. 「JAPIC Weekly News」No.726-729	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.822-825	毎 週	〈iyakuSearchPlus) https://database.japic.or.jp/	
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジュー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>

日本の新薬

— 新薬承認審査報告書集 —

全97巻

◆最新の6巻を刊行。全97巻に!!

新薬67品目を追加し、全巻では1,252品目を収録。

◆新薬開発、薬事・市販後対応、医学・薬学教育に!!

本書は、新薬の承認審査における厚生労働省の「審議結果報告書」および(独)医薬品医療機器総合機構等の「審査報告書」をすべて収録しております。

◆お得で便利なセットでの購入をお勧めします!!

各巻 **22,000円** (+税)

追加分6巻セット **66,000円** (+税)

※上記価格とは別に、JAPIC 維持会員様向けの割引価格をご用意しております。



一般財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行
丸善出版 株式会社 発売

JAPIC <https://www.japic.or.jp/>

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

おたかんさす

別名:ブルーキャッツアイ。学名:Achetaria azurea (Linden) V.C.Souza。英名:Brazilian snapdragon。ゴマノハグサ科オタカンサス属。半耐寒性多年草。ブラジル原産。花期は秋、温室では冬も咲いている。花は2枚の花弁を持ち中央の白斑が猫の目を連想させる。果実は蒴果。地上部にはcyclopropainden系β-copaen-4-α-ol。(抗菌活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。